

黒字に転換

十代田化工が最高益

前期営業

東大手3社の2026年3月期連結フィックスが営業黒字に転換し、千代田が1兆7千億円、千代田は3000億円、千代田は20億と予想した。日経は、国内外EPCプロジェクト豊富な実行による千代田の強さを指摘した。中東情勢のリスクを織り込んだが、営業利益は上振れた。今期は中東情勢の緊張状態が前半に解消し、プロジェクト遂行に支障がなくなると思われた。

子転落

千代田化工建設は、グローバルパスLINGの損益改善効果で過去最高益となった。中東の石油・石油化学関連設備や出光興産から受注した固体電解質大型パイロット装置のEPC案件などにより受注高を伸ばした。中東情勢の影響は、遂行中案件への物理的被害がなく、工事は再開・回復基調とした。千代田は、ブラジル発電案件における価格回収リスクの顕在化、工程遅延によるコスト増加により赤字となった。現在試運転の最終段階にあるが、機器類の予期せぬトラブルなどにより遅延しているが、6月に完工予定とした。今期は不採算案件の一時や収益性改善策の浸透による確実な案件遂行による

	340,000	10,000	14,000	12,000
	182,941	▼19,003	▼11,388	▼14,944
東洋エンジニアリング	278,091	2,591	6,459	2,020
	190,000	3,000	7,500	6,000

NEW環境展2026

リサイクル設備などPR



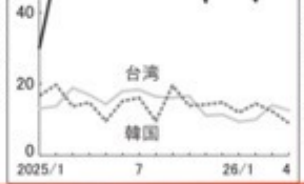
環境リサイクル関係企業の総合展示会「2026NEW環境展」が、5月20日から22日まで東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催され、複数企業がブースを出展した。プラントメーカー大手の日工は、建設廃棄物など向けの資源循環型プラントなどをプレゼンテーションした。腐石やホドを固硬化材にリサイクルしたり、建設廃棄物を原料として流動化処理を製造したりするプラントなどを実機やパネルなどを

環境リサイクル関係企業の総合展示会「2026NEW環境展」が、5月20日から22日まで東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催され、複数企業がブースを出展した。プラントメーカー大手の日工は、建設廃棄物など向けの資源循環型プラントなどをプレゼンテーションした。腐石やホドを固硬化材にリサイクルしたり、建設廃棄物を原料として流動化処理を製造したりするプラントなどを実機やパネルなどを

国・台湾は低調長く

3カ国（ベトナム、韓国、台湾）の鉄スクラップ輸入量は、3カ国全て半同月の水準を下回った。ベトナムは4月の水準が高かった反動や、中東情勢でフレイト（用船料）が上昇し成一時停滞し減少したとみられる。1-4月累計は前年同月の当月の輸入額比2%増の212万9000トンで、連続のマイナ。水準は年内昨年2番目に65万トン（4月）の65万トン。相手国は、最多が17%減の28万トンで2カ月はマイナス。オーストラリアや香港からの増加が大部分の日本が減少を押し下げた。

1-4月累計は前年同月の当月の輸入額比2%増の212万9000トンで、連続のマイナ。水準は年内昨年2番目に65万トン（4月）の65万トン。相手国は、最多が17%減の28万トンで2カ月はマイナス。オーストラリアや香港からの増加が大部分の日本が減少を押し下げた。



輸入相手国は日本から28%減の5万8000トンで、全体に占める割合が75%から65%に縮小した。現地需要家の購買力低下のほか、日本の国内相場が上昇し高感が高まり、オーストラリアやベトナムなど他国の調達にシフトした。1-4月累計は前年同月比26%減の47万9000トンだった。台湾は、前年同月比25%減の12万6000トンで16カ月連続して前年実績を下回った。別は、米国が4%減の5万8000トン、日本が68%減の1万9000トン。そのほかオーストラリア、ドミニカ共和国、中国が続いた。1-4月累計は前年同月比26%減の46万9000トンだった。

環境最前線

粗大ごみ業務DXで効率化 JEMS、自治体向け提供



予約から計量まで一貫を管理可能なほか、自治体独自の報告書や帳票の形式をカスタマイズでき、日報・月報作成の負担を軽減する。受け付けをペーパーレス化してコストを削減し、データに基づいたごみ削減のアクションプランが策定できる。これまで、宮城県、茨城県、千葉県、群馬県、神奈川県、大



粗大ごみのウェブ予約「クル」と「計量専用車」で創造するJEMS（本社・茨城県つくば市、須水裕毅社長は、自治体向けに受け付け・計量業務を自動化する「計量専用車（プラットフォーム）と粗大ごみのウェブ予約システム」を提供し、DXの推進により業務の効率化と住民サービスの向上を両立させている。計量専用車は、受け付け・計量・精算を自動化するソリューションとして、プラットフォームと入退場ゲート、案内表示、デジタル計量ポスト、受け付けタブレット、信号機、自動精算機を連携させるリアルタイムデータ



前川工業所の破砕機「破砕ist」

ごみ焼却発電を受注 カナデビアイノバ ローマで カナデビアは21日、同社の100%子会社で、ごみ焼却発電プラントやバイオガスプラントの設計や建設、保守、運営などを手掛けるカナデビアイノバ（スイス）が、イタリア・ローマで進められているごみ焼却発電プラント事業に参画すると発表した。イノバは同事業に対して一部出資して事業会社を設立し、事業会社から同プラントのEPC（設計・調達・建設）および営業運転開始後

鉄スクラップ扱い量4月 大阪地区3カ月連続増

関西鉄協協賛会（代表幹事＝黒川友二・扶和）が、4月の鉄スクラップ扱い量（ヤード入荷）は0.5%減の6万2678トンで5カ月前のマイナ。メーカ直送は15

の一方360トンで、4月分のマイナス、データは4.5%減の4684トンで5カ月前のマイナ。大阪商港からの船舶数量は、前年同月が高水準だった反動で48%減の3万5988トンで3カ月前のマイナ。ヘビは34%減の3万4982トンで3カ月前の減少した。

福岡県の環境

自動車リサイクル促進センターは、このほど福岡県が発行するグリーンボンドに投資したと発表した。債券は福岡県2026年度第4回公募債（グリーンボンド・10年）で

車リサイクル促進 福岡県の環境